

豊津のあゆみ2



平成 30 年度北浦一周サイクリング



平成 26 年度とよつかるた大会



令和 4 年度とよつふれあい運動会



令和 5 年度とよつまつり

豊津地区まちづくり委員会

設立20周年記念

目 次

豊津のあゆみ2について	2
あいさつ	3
1 豊津地区の10年	4
(1) 人口と世帯の推移（住民基本台帳人口）	4
(2) 地区別年齢層別人口の推移（国勢調査人口）	5
(3) 区加入率の推移	7
2 豊津地区まちづくり委員会の10年	8
(1) まちづくり委員	8
(2) 専門部名称変更	8
(3) コロナ禍を乗り越えて	8
3 豊津公民館の10年	9
(1) 教育委員会へ所管替え	9
(2) 公民館に名称統一	9
4 まちづくり委員会事業	10
(1) まちづくり事業計画（コミュニティプラン）	10
(2) 主要事業	10
①とよつキッズ	10
②北浦一周サイクリング	10
③とよつふれあい運動会	11
④とよつまつり	11
⑤とよつかるた大会	11
資料編	12
(1) 年度別事業	13
(2) とよつだより	24
(3) とよつふれあい運動会	143
(4) とよつかるた大会	145
(5) 歴代まちづくり委員	147
(6) 歴代まちづくり役員	169
(7) 歴代豊津地区区長、副区長 町代、常会長	181
(8) 歴代公民館職員	188
(9) 大字別人口と世帯数	190
(10) 年齢別人口構成	192
(11) 区加入率	195
(12) 豊津小生徒数推移	197
(13) 豊津地区の変遷	200
(14) とよつかるた読み札・絵札	205
(15) とよつかるたウォーキングコース	211

豊津のあゆみ2について

住民自らが事業を企画運営し、地域づくりを進めていく「地域管理・運営型」公民館の活動主体として「豊津地区まちづくり委員会」が発足して20年が経過しました。

発足10周年に際しては、平成26年度に「豊津のあゆみ」を発刊し、地域住民の皆さんに配布しました。まだ手元にある方も大勢いらっしゃるかと存じます。

それから10年、歴史は引き続き残すべきであるとの声を受け、今回「豊津のあゆみ2」を発刊する運びとなりました。

今回はまちづくり委員会発足からの10年を振り返り、まちづくり活動に貢献してきた方々の思いや豊津地区、豊津公民館の歴史等といった内容を中心とし、それにとよつだより、歴代委員会役員、区長名簿などの資料を添えた記念誌として編集しました。

今回は、この10年間で新たに始めた大きな事業が特には無かったことや、前回の資料がこれまでの歴史を振り返るのに役立つとの声を多く聞きくことから、とよつだよりや地区の各種統計の数値など資料を中心にまとめております。

読み方についても時代に即し、インターネットを使い配信し、アプリでの閲覧を基本にしています。電子ブック形式で提供し、スマートフォンやパソコンで見られることを想定しています。

ただ全員がデジタルメディアを利用できるわけではありませんので、概要版は紙媒体で作成し、スマートフォン等が無くても読めるものも作ります。

前回と比べるとデータ中心の内容になっていますが、この数値をできるだけ見える化し、10年の豊津の変化がわかるものにしていきますので、これを基に今後の豊津を考えるご参考になれば幸いです。

あいさつ

豊津のあゆみ2 発刊によせて



豊津地区まちづくり委員会 委員長 和田 勉

日頃より、まちづくり活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

この度、私たちの活動が20年を迎えるにあたり、10周年誌に引き続き「とよつのあゆみ2」を発刊する運びとなりました。この成果は、先人の方々のご尽力と、情報発信専門部の皆さんの献身的な努力の賜物であると深く感謝申し上げます。

この20年間の成果は、「とよつだより」として63回にわたり発信され、豊津地区のまちづくりの活動記録として、インターネット上でいつでも閲覧できるようになりました。これにより、地域の歴史や活動が次世代に伝わる貴重な資源となることでしょうか。将来的には、各家庭でお孫さんが「おじいちゃんとおばあちゃんがネットに写っていたよ」といった話題に活用していただけることを期待しています。

まちづくりの活動は、少子化や過疎化といった課題に直面していますが、私たちはその中でも工夫を凝らし、地域の活性化に努めてまいります。地域の皆さんと共に、楽しいまちづくり活動を推進するためには、皆さんの協力が不可欠です。私たちの活動が、豊津地区のさらなる発展に寄与できるよう、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

豊津のあゆみ2 発刊に向けて



豊津公民館 館長 沢畑 好一

「豊津のあゆみ2」発刊おめでとうございます。

豊津公民館の名称統一など、まちづくりを取り巻く環境は変化してきています。その中、「豊津のあゆみ2」の発刊は象徴的とも云えます。

阪神・淡路大震災から30年、東日本大震災から13年、そして昨年の能登半島地震・豪雨災害など、近年、甚大な被害をもたらす自然災害が多くなってきました。次の災害に対する備えが必要となる今、公民館は地域防災拠点としての役割も求められています。

しかし、公民館が社会教育実践の場であることに変わりなく、その機能は益々重要です。社会教育は、自分たちの生活を良くするために考え、実践していく活動であり、住民の皆さんが主体のまちづくりです。

まちづくり委員会は、今まで築いてきたものを次の世代に引き継いでいく時機に差し掛かっています。

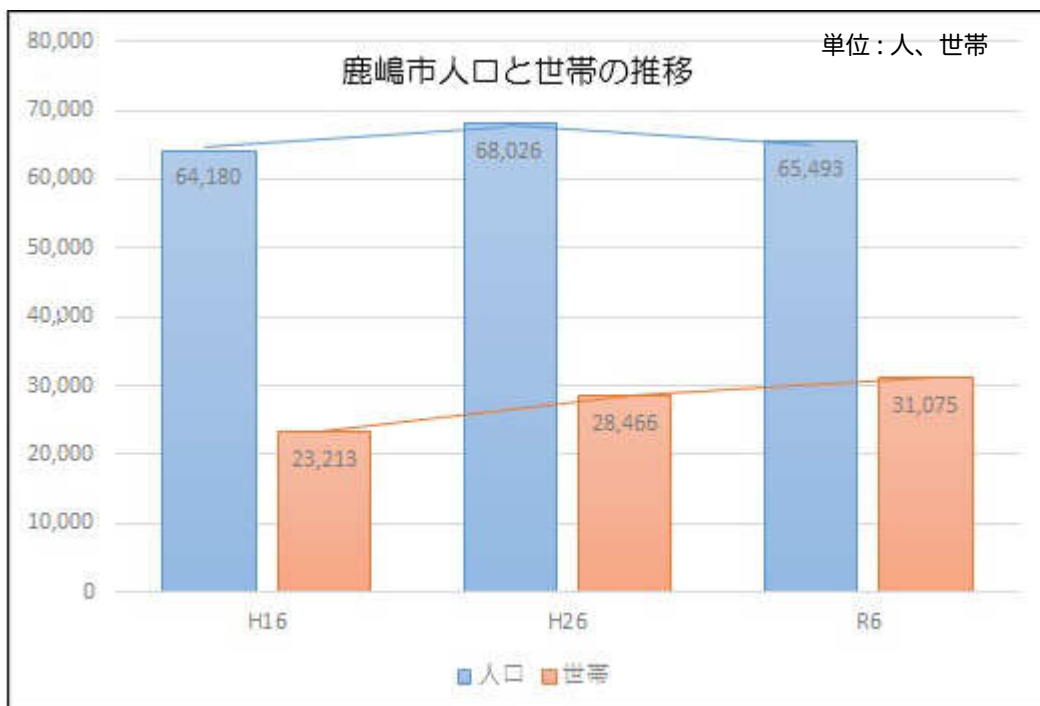
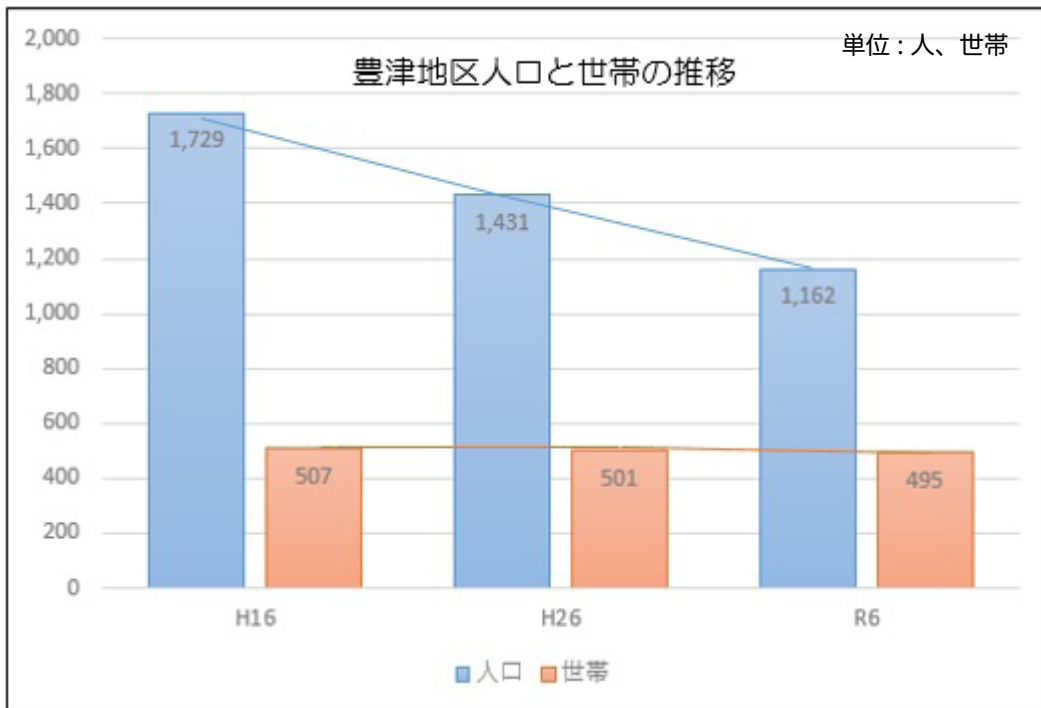
そのために公民館は皆さんをサポートしてまいりますので、今後ともよろしく申し上げます。

1 豊津地区の10年

(1) 人口と世帯の推移（住民基本台帳人口）

鹿嶋市全体の世帯数は増えているものの、人口は減少しています。

豊津地区は市全体と比べ人口の減少率が高く、人口減少が顕著となっています。一方世帯数も減少していますが、人口減少と比べると緩やかであり、一世帯当たりの家族数が減少したものと推測されます。



各年4月1日現在

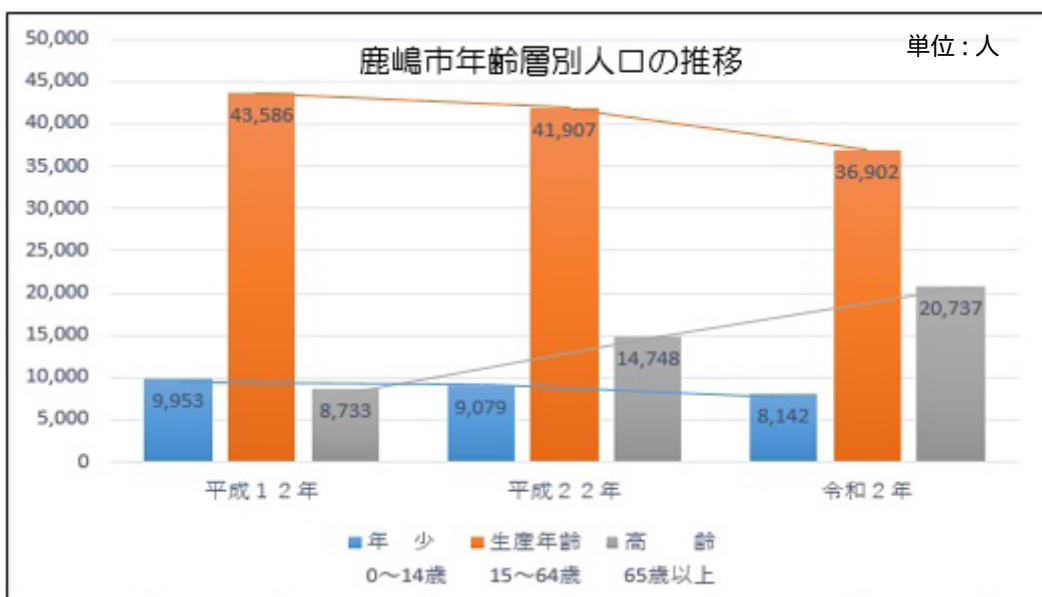
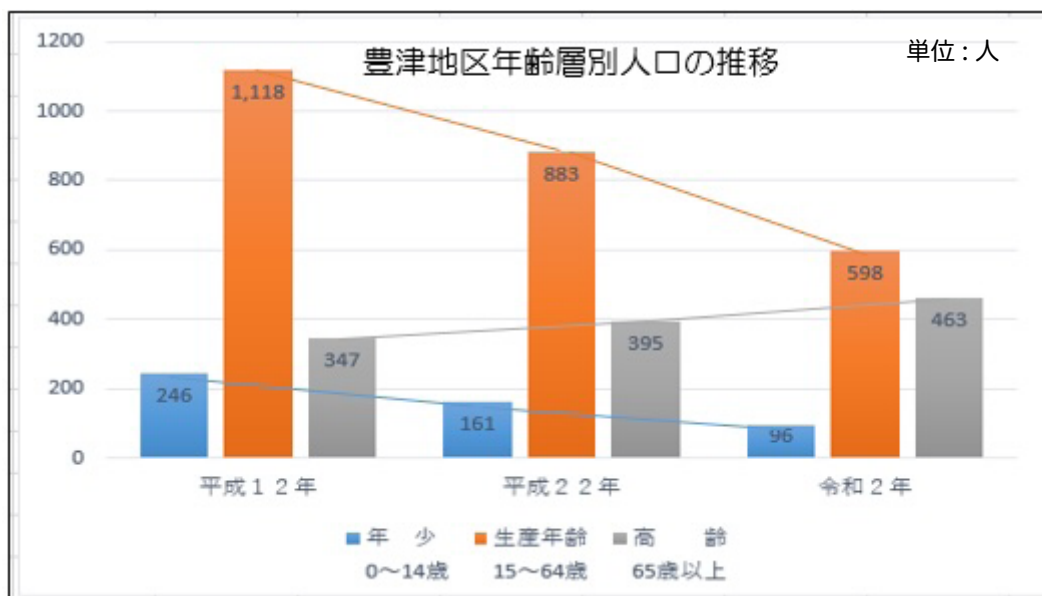
(2) 地区別年齢層別人口の推移（国勢調査人口）

年齢層別人口は国勢調査の数字を用いていますので、比較する年が国勢調査の行われた令和2年、平成22年、12年となり、直近の数字ではありませんが10年間隔の増減傾向を見るには特に問題は無いと思われます。

国勢調査では5歳毎に人口を算出していますが、これを0から14歳の年少層、15から64歳の生産年齢層、65歳以上の高齢者層に分け、10年間の推移について豊津地区を鹿嶋市全体と比較しました。

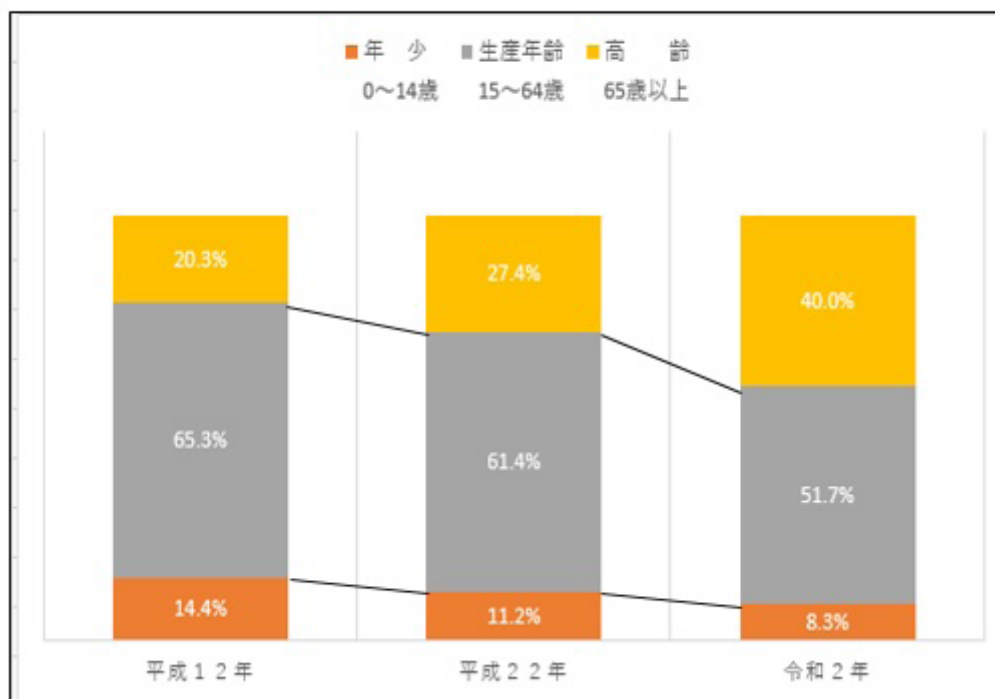
これを見ると、鹿嶋市は年少層と生産年齢層が減少し、高齢者層が増加しています。豊津地区は高齢者層の増加率は鹿嶋市全体程ではありませんが、年少層と生産年齢層の減少が著しく進んでいます。

従いまして豊津地区の年齢層別の割合は、鹿嶋市全体と比べ年少層と生産年齢層が薄く、高齢者層が厚い構成となっています。

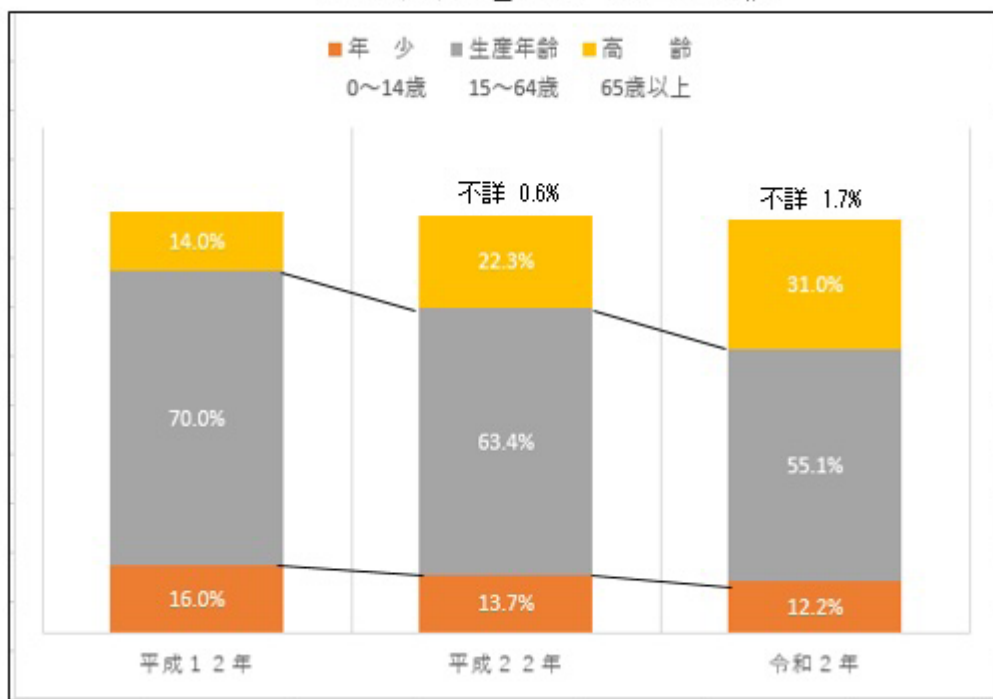


各年10月1日現在

豊津地区年齢層別人口割合の推移



鹿嶋市年齢層別人口割合の推移



各年10月1日現在

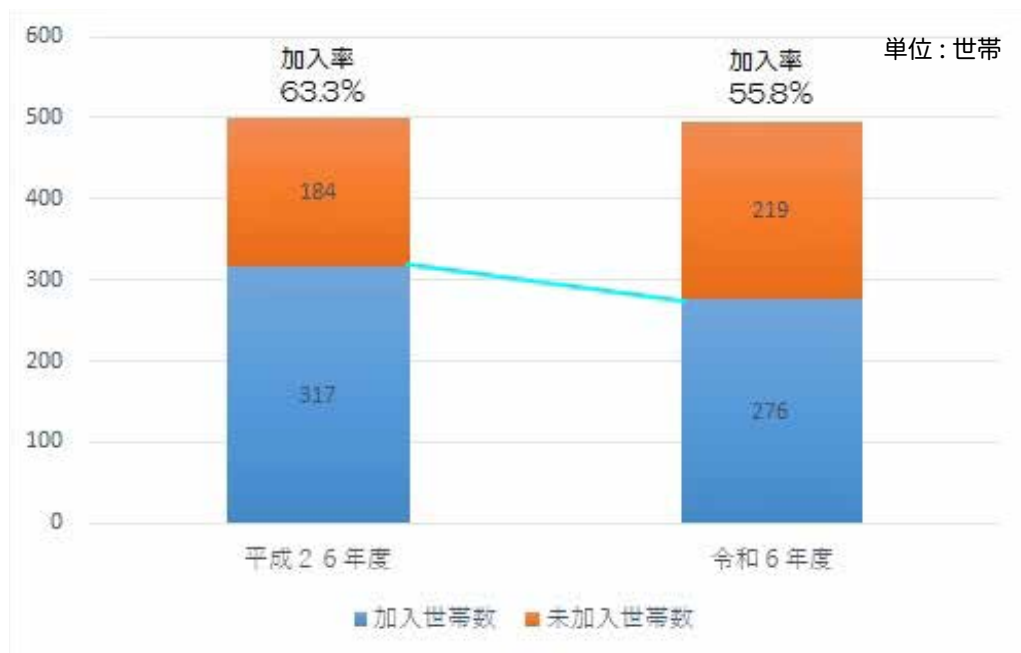
(3) 区加入率の推移

市からの配布物の配布対象世帯数を区加入世帯とし、世帯全体数は住民基本台帳の世帯数として区加入率を算出しました。

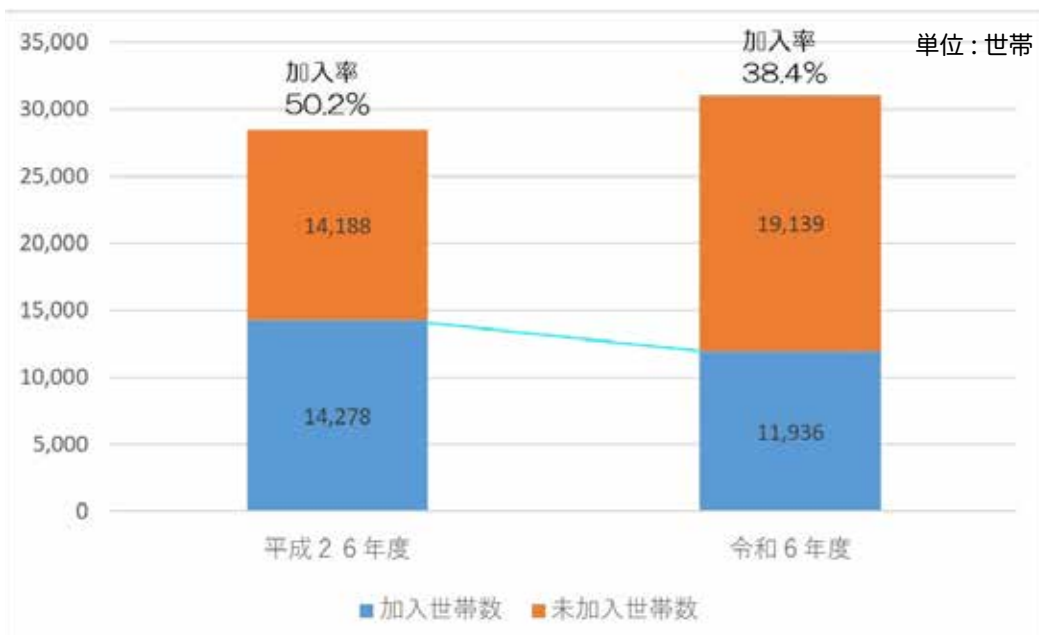
10年前の平成26年と比べ豊津地区、鹿嶋市とも令和6年度の加入率は減少しています。

減少率は豊津地区の方が鹿嶋市全体よりも緩やかですが、加入世帯の中には配布物をもらうために名前だけ残している世帯も含まれており、実態としてはこの数字以上に減少していると思われます。

豊津地区区加入率



鹿嶋市区加入率



各年4月1日現在

2 豊津地区まちづくり委員会の10年

(1) まちづくり委員

まちづくり委員の数は70から80人ぐらいであり大きな変化はありません。委員になっている人も区長、副区長や小学校のPTA、子ども会育成会役員など充て職でなっている委員の入れ替えはあるものの、多くの方が委員を継続して務めています。

・・・資料編 P144～165 参照

まちづくり委員会の役員も同様に多少の入れ替わりはあるものの、ほぼ同じ方がついています。

・・・資料編 P166～177 参照

委員や役員の構成があまり変わらない事で委員が事業に精通していますが、一方でマンネリ化していることも否めません。また、就任当時は活動できた方も、高齢化で同様の活動を行うことが困難になってきています。

今後のまちづくり委員会事業継続、新展開のため、定期的に新しい委員が入ってくるようなシステム作りが必要です。

(2) 専門部名称変更

令和2年度に2つの専門部が名称変更をしました。

「スポーツ健康づくり専門部」が「健康づくり専門部」、「広報記録専門部」が「情報発信専門部」へ変更となりました。

「健康づくり専門部」は高齢化が進展する中、健康寿命の延伸に重点を置くことを明確にするため、健康を強調する名称としました。

「情報発信専門部」は、紙媒体の広報紙だけでなく、フェイスブック、ホームページといったインターネット配信が更に進展することを見据え、より幅を広げた「情報発信専門部」へ名称を変更しました。

(3) コロナ禍を乗り越えて

令和2年から世界的規模で新型コロナウイルス感染症が流行し、まちづくり事業は大きく影響を受けました。

新型コロナが飛沫感染することから、三密（密閉、密集、密接）を避けることが予防策として推奨され、人が集まって事業を行うまちづくり事業はかなり制限されました。

令和2年度はとよつふれあい運動会とかるた大会が中止、とよつまつり

も展示だけとなりました。令和3年度も運動会は中止でした。その他にもバスでの移動や、飲食を伴う事業は中止せざるを得ませんでした。

しかしまちづくり委員会では、そうした状況下でも事業を如何に実行していくかを模索しました。

令和3年度のとよつまつりでは、持ち帰りという制限付きではありましたが、カレー丼販売を試みました。運動会も令和4年度は会場への入場制限をし、競技種目も減らした午前中だけの開催ではありましたが、3年ぶりに復活させました。

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、制限が緩やかになったことから、まちづくり事業はコロナ前に近い内容に戻ってきております。

しかし新型コロナウイルスが無くなったわけではありませぬので、引き続き感染症予防に注意を払いながらまちづくりの事業を展開していきます。

3 豊津公民館の10年

(1) 教育委員会へ所管替え

平成16年度まちづくり委員会が発足した当時、公民館へまちづくりセンターを併設、社会教育施設の性格を強調した活動を中心とするより、地域住民のやりたい活動を主体的に取り組んでもらうため、市長部局の市民協働部がまちづくりセンターを前面に出し市民協働のまちづくりを推進しました。

この後平成27年度に、協働のまちづくりが一定の成果を上げたとして、教育委員会部局が主管となり、公民館が前面に出るようになりました。

(2) 公民館に名称統一

平成16年度からどちらが前面に出るかの違いはありましたが、公民館とまちづくりセンターは併設していました。

しかし一つの施設に2つの名称がついているのが分かりにくく、実質その2つにあまり差異が無いことから、令和5年度にまちづくりセンターを廃止し、公民館に名称を統一しました。

4 まちづくり委員会事業

(1) まちづくり事業計画（コミュニティプラン）

コミュニティプランとは、地域が主体となった地域コミュニティ活動の推進に向けた指針として、地域の将来像や課題、その解決に向けた具体的な活動などをまとめた計画です。作成する意義として、「地域の課題共有」「国・自治体で対応できないもので地域が協力してできること、地域独自でできることを振り分ける」「プラン作成過程におけるソーシャルキャピタル（地域の絆）の形成」などが挙げられます。

令和2年度に鹿嶋市全小学校区域ごとにコミュニティプランが作成されました。計画年度は令和3年度から5年度の3年間です。このコミュニティプランは内容が地区で行うべきものと行政が行うべきものが混在し、コロナ禍と重なったこともあり、計画した事業はあまり実施されませんでした。

計画期間が終了する令和5年度に見直しを行い、事業主体を明確にまちづくり委員会とし、豊津地区まちづくり事業計画（第2次豊津地区コミュニティプラン）を作成しました。

計画年度は令和6年度から10年度までの5年間とし、この計画に基づき豊津地区まちづくり委員会事業を計画、実施しています。

(2) 主要事業

コミュニティプランを作成する前から、まちづくり委員会では様々な事業に取り組んできました。豊津地区まちづくり事業計画の中でもこれらは引き続き主要な事業として位置づけられています。

①とよつキッズ

豊津小学校の児童を対象に、学校の授業では学べないことを体験する場を提供し、将来地域を担っていく子どもたちを地域で育成しています。

最近では主に野菜、花栽培、ホタル見学会、三世代交流会を行っています。

②北浦一周サイクリング

北浦周辺に住む人や堤防に釣りなどで訪れる人に北浦浄化を訴え北浦周辺をサイクリングします。令和6年度で42回目となる伝統ある事業です。

③とよつふれあい運動会

平成18年度に、それまで別々に行っていた住民体育祭と豊津小学校運動会を合同で行う「とよつふれあい運動会」が開催されました。

双方とも参加人数が減少し単独開催が難しくなっていることが背景としてありましたが、結果的に豊津の輪が広がる運動会となり、現在も引き続き行われています。

④とよつまつり

地域の賑わいづくりとして、毎年秋に公民館内及び敷地において祭りを開催しています。

模擬店や芸能発表、手芸、陶芸、書道等の作品展示を行っています。

⑤とよつかるた大会

平成16年度に親子の絆と郷土愛を深めることを目的に、まちづくり委員の手による「とよつ親子かるた」が作られました。

このかるたを使った「とよつかるた大会」が平成17年度から行われ、毎年小学生を中心に、幼児からシニアまで年齢層別に分かれ競技を行っています。